

# マスコミ報道の能登半島地震への影響

## —取り下げ、過少報道(取材不足)～過剰報道—

高田 昭彦<sup>1</sup>

<sup>1</sup>復興ボランティアタスクフォース 代表 富士フィルムビジネスイノベーションジャパン 勤務

### 1. 問題意識

筆者は 2004 年より災害ボランティア活動をはじめ、2006 年に居住地川崎市に於いて、災害ボランティア団体/森林ボランティア団体「復興ボランティアタスクフォース」を設立して被災地での活動、居住地での学習活動、啓発活動、研究活動も行っている。一方で、民間企業である富士フィルムビジネスイノベーションジャパンに勤務している。本業 A を持ち収入をボランティア B での活動費、研究費に投入する兼業ボランティア、兼業研究者である。高年齢者雇用安定法では社会貢献活動をも就業の範囲とされて居るが、定年退職者層や社内失業者の災害ボランティア起用など社会貢献活動へ参画すべしと提言も行っている。

筆者はベテランを自認するも、残念ながら災害ボランティア界にはベテランの意見を上手く吸い上げる仕組みが未成長であると感じている。なんとなれば、提案地獄で消耗するから災害の緊急時には改善意見など聞かなくてよい、との解釈さえあることを残念に思っている。支援者間での意見対立、価値観対立は認識されているにも関わらず暫定解すら得られていない。災害時に解決意欲に薄く、かと言って平常時に多少の軋轢があっても対話/討論ができていないかと言うと、相互理解も薄く誤解に満ち溢れ、敵対関係のような現状さえもあり、災害ボランティア界全体に対話を逃げる風土がある。平穏に改善意見を言うつもりでも、他者を攻撃する危険人物とのレッテルを貼られる。被災地では評判調査のための人物素性照会が行われ、一種無責任な人物評価のみが独り歩きする実態もある。せめて本人に確認することにより、不要な誤解は、支援手段の違い、組織ガバナンスの違いであると判るのである。このため、活動が活発な個人/団体であるほど「不評」を拾ってしまい、活動歴が少ない団体や、災害支援を本業としない団体が経験値少ないにも関わらず主導権を握ってしまい、被災地はより混迷するのである。

また、被災者—支援者側関係に目を向けると、災害後には「苦労したしけれど乗り越えたね」と浄化する傾向を感じる。支援者も、市役所(行政)、災害ボランティアセンター(外郭団体)に於いてでもある。防災学者は、被災経験を次なる別の災害での防災活動に生かしましよう、と「災害サイクル」を提唱するのであるけれど

も、積み残し課題の対話は促進されず、取りこぼされ改善が進まない。筆者としては、意見対立を恐れるあまり、突っ込んだ議論が出来ない風土を感じ「非コミュニケーション」と表現している。

日本の災害ボランティア界では、2015 年くらいまではベテランボランティアと言うカテゴリーには市民権は無く、2016 年の熊本地震に於いていわゆる技術系ボランティアがやっと認識される(存在を主張できる)といういわば裏の歴史さえあった。そう言えば、スーパーボランティア尾畠春夫さんも 2018 年のブレイクである。能登半島地震では「社協受付ボランティアのほか、技術系ボランティアと言う存在があるようだ。」「社協では受け付けられないような重機作業や、応急危険度判定が赤(危険)での作業も行ってくれるようである。」と被災者の噂には伝えられ、マスコミにもやっと登場する。しかし、報道のネット記事が削除されることも未だあり混乱の元であるとも考える。

### 2. 取り下げられた報道

ネット記事として報道されたが、何故か取り下げられた報道を 2 例、まずは紹介しよう。スーパーボランティア尾畠春夫さんを取材した記事(図 1)、お笑い芸人なすびさんを取材した記事(図 2)である。

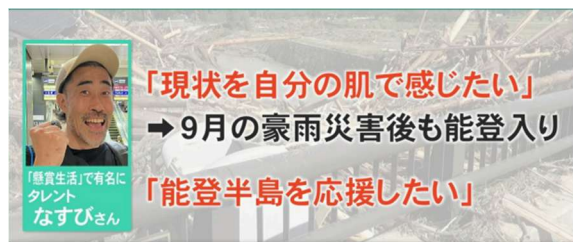
《スーパーボランティアの尾畠さんが能登半島入りも 1 日で活動断念した理由》被災地に前に初めて涙した日、明かした「85 歳を区切り引退」発言の真意



「(登録や許可が必要で)すぐにボランティア活動はできないと。『県庁と市役所、社会福祉協議会に許可をもらってOKならチームに入って行動してください』と聞いてちょっとダメだなと思った。これまでは被災地のボランティアセンターに行けばすぐに始められたけど。途中で1泊だけして帰りましたが被災地に何もできず、初めて涙が出ました」

図 1 尾畠春夫さんのネット記事

「強い覚悟を持って…」肌で感じたい“能登” なすびさんが災害ボランティアを続けるワケ



なすびさん「私は、水害後は、まだ1度しかボランティア活動で現地に入れていないんですけど、これからもボランティア活動だけでなく、情報発信などを含めて能登半島のことを絶対に忘れない、そういった強い覚悟を持った応援活動、能登半島に寄り添った応援活動を続けていきたいと思っています」

図2 お笑い芸人なすびさんのネット記事

なお他にも、「被災者が技術ボランティアを探し回る」、石川県ボランティアコーディネーター会に取材し、「能登入りはできない」としたネット報道、「1月3日に29団体がすでに能登入り（検討中）である」とするJVOAD報の追認報道、などが消えて居ることがわたしの記憶には残って居る

### 3. 甘い取材

次に取材が甘い(と筆者には思われる)ネット記事である(図3)。もっとも微妙な温度差はあるものの、石川県も、珠洲市、輪島市などの各自治体や各社協も、ボランティア(参加)の窓口が2つあり、ニーズ(依頼先)も2つあるとの広報は実は一切していない。また、わたし自身が石川県に問い合わせを行うと所管課が存在せずJVOADであるとのこと。今や、ふるさと納税の所管課を置く行政は多い、交流人口の一種である県外ボランティアの所管を置かないのは勿体ないと思う。

#### 【能登二次災害】地震ボランティア活動縮小の矢先に豪雨、NPOが現場で補完

「今回のような輪島市のケースにおいて、被災者がボランティアに家屋の清掃を依頼する経路は2つある。一つは、輪島市の社会福祉協議会が主催する『輪島市災害たすけあいセンター（輪島市災害ボランティアセンター）』に依頼するもので、橋浦さんが待たされているルート。もう一つが、すでに地域での活動を通じて市の社会福祉協議会と連携しているNPOやNGOに直接依頼するルートだ」

図3 柴田邦臣駒澤大学教授のネット記事の切り取り

つまりは、各自治体や各社協、政府や全国社会福祉協議会や中央共同募金会を含む日本の災害ボランティア界が、情報公開や説明責任を痛感しておらず、いわゆる「顔の見える関係」で良しとしているのであろう。筆者はスフィア基準やCHSに照らして、「説明責任」や「安全に苦情を申し立てることができる」よう改善をお願いしたい。

### 4. 過剰報道

次にあるゴシップ(とも評された)あるNPO法人での「性的トラブル」の報道事例を紹介しよう。今も後を引いて居るため参考文献は当日投影に留めるが、要は男女間の「惚れた」、「困る」、というトラブルである。幸い他メンバーの介入で「被害」とまでは至らなかった(ようだ)が、一方で価値観対立による対話/議論下手から、団体内外で炎上となり、警察に被害届を出すに至り、後に所管警察署からは事件性はなしとされた(と報道にある)事案である。真偽を警察に情報公開請求したいとする関係者も居る。警察も迷惑であるかも知れない。男性側を叩く意見を求めるのであるのか、筆者に私信で接触する者も報道前から居た。情報不確実な段階、被害者救済策も未定な状態で筆者判断は控えたことと、「団体維持、被災者支援活動の継続」を第一とすべしという私見をミソジニーであり、謝罪すべきと言われて閉口した。また、(精神的ショックを負った)とされる女性側には、「ボランティア保険」での通院保障や「人格権侵害」保障制度を私から伝えたいがそれもならず。支援活動継続、団体維持、被災者救済、(被害を訴える)メンバー救済、安全安心なボランティア活動と、何を満たすか立ち位置はそれぞれだ。層別して平常時に団体方針として示すことが必要と痛感する。

### 5. まとめ

- ・ネット報道が訂正記事すら無く消えてしまうことは、社会的責任(説明責任)に照らすと不可解だ。
- ・そもそもは、災害行政ではボランティアが関与すると、説明責任に対して腰が引けている。
- ・ボランティアは参加型社会であるが、退出自由型社会でもあるため、検証困難、ガバナンス困難である。

### 参考文献

NEWSポストセブン(2024-10-27) スーパーボランティアの尾畠さんが能登半島入りも1日で活動断念した理由 被災地を前に初めて涙した日、明かした「85歳を区切りに引退」発言の真意 (参照年月日: 2024.10.29)

[https://news.yahoo.co.jp/articles/2cefbb485b098f05f0a6e020b1930f6098dc90c2?fbclid=IwY2xjawGhg0FleHRuA2FlbQlXMQABHb8ZHOwBTzpPbySzFIWvPJ8IFoCD0zuDR2aCi30VFTKPOvPevDMNOrldRw\\_aem\\_MwuOtItemARfHx4uRt2Y4g](https://news.yahoo.co.jp/articles/2cefbb485b098f05f0a6e020b1930f6098dc90c2?fbclid=IwY2xjawGhg0FleHRuA2FlbQlXMQABHb8ZHOwBTzpPbySzFIWvPJ8IFoCD0zuDR2aCi30VFTKPOvPevDMNOrldRw_aem_MwuOtItemARfHx4uRt2Y4g)

TBS NEWS DIG 「強い覚悟を持って…」肌で感じたい“能登” なすびさんが災害ボランティアを続けるワケ (参照年月日: 2024.11.10)

<https://newspicks.com/news/10783767/>

JBpress (2024-10-18) 【能登二次災害】地震ボランティア活動縮小の矢先に豪雨、NPOが現場で補完 (参照年月日: 2024.10.29)

<https://jbpress.ismedia.jp/articles/-/83807?page=4>